地域における
マイ・タイムライン
取組事例集

令和3年6月

国土交通省　水管理・国土保全局
河川環境課　水防企画室

マイ・タイムラインの取組事例について

本事例集では、マイ・タイムライン普及啓発の取組について、国土交通省（河川事務所等）で市区町村を支援した事例を中心に、対象や取組概要および期待される効果等の視点でとりまとめたものです。

マイ・タイムラインの取組を軸に、更なる水害リスクの周知に取り組んでいただくための一助として本事例集が活用されれば、幸いです。

頁	地方	主な関連自治体名	主な対象						講師/ファシリテーター			形式	
			一般住民	児童	学校関係者	防災士等	自治体職員	その他	行政	気象予報士	その他	対面式	オンライン
3	北海道	北海道恵庭市	●						●			●	
4	北海道	北海道標茶町		●					●			●	
5	東北	宮城県岩沼市				●			●			●	
6	東北	宮城県東松島市	●							●		●	
7	東北	山形県南陽市	●							●		●	
8	東北	山形県酒田市				●			●			●	
9	関東	茨城県稲城市		●					●			●	
10	関東	鬼怒川・小貝川流域自治体	●								●		●
11	関東	鬼怒川・小貝川流域自治体	●							●			●
12	関東	茨城県ひたちなか市						●	●			●	
13	関東	茨城県常陸大宮市					●			●		●	
14	北陸	信濃川中流沿川自治体	●										
15	北陸	長野県長野市					●		●			●	
16	北陸	長野県長野市	●							●		●	
17	北陸	長野県安曇野市		●					●			●	
18	北陸	千曲川・犀川流域関連自治体											
19	中部	岐阜県輪之内町		●					●			●	

マイ･タイムラインの取組事例について

	地方	主な関連自治体名	主な対象						講師/ファシリテーター			形式	
			一般住民	児童	学校関係者	防災士等	自治体職員	その他	行政	気象予報士	その他	対面式	オンライン
20	中部	岐阜県輪之内町		●					●			●	
21	中部	岐阜県安八町		●					●			●	
22	中部	岐阜県岐阜市		●					●			●	
23	中部	岐阜県大垣市		●					●			●	
24	近畿	福井県福井市	●						●			●	
25	近畿	兵庫県加古川市	●							●		●	
26	近畿	京都府福知山市等	●						●			●	
27	近畿	三重県名張市	●								●	●	
28	中国	岡山県倉敷市						●	●			●	
29	四国	香川県まんのう町		●							●	●	
30	四国	愛媛県松山市	●	●		●			●			●	
31	四国	愛媛県伊予市	●						●			●	
32	四国	愛媛県大洲市		●					●			●	
33	九州	福岡県飯塚市	●						●			●	

本事例集を参考にマイ・タイムラインの取り組みを進めていただき、地域の実情に合った水害リスクの周知の更なる展開を期待しています。

【北海道開発局】

マイ･タイムラインの事例

町内会及び地域住民を対象としたマイ・タイムライン検討会を開催しました（北海道恵庭市）

取組主体　　：恵庭市

取組参加機関：恵庭市（大町町内会）、札幌開発建設部

対象　　：恵庭市大町地区

参加人数　　：第1回（大町町内会役員）15名、第2回（大町町内会の住民）19名　　計34名

取組概要　　：

○恵庭市大町地区では、想定しうる最大規模の降雨に伴い、漁川等の河川が氾濫した場合、大部分の地域が浸水し、大きな被害が発生することが想定されている。このため、「自らの命は自らで守る」意識を住民に広めることを目的に、マイ・タイムライン検討会を開催。

○検討会は、町内会役員を対象にした検討会（共助目的）と地域住民を対象にした検討会（自助目的）の2回に分けて開催。

○検討会では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、検温の実施、消毒の徹底等の対策を実施。

○当日は、近年の水害、タイムラインの目的、河川情報の把握方法等を説明したうえで、町内会役員と地域住民それぞれの立場から「いつ・何をするか」を自ら考え、タイムラインを作成。

取組内容　　：

◆第１回：町内会役員を対象としたタイムライン検討会

〇近年の水害と大雨に向けた事前準備について

1．近年の水害
2．被害軽減に向けた取組
3．タイムラインとは
4．大雨が降る前に確認すること（浸水範囲と避難先の確認、避難情報や河川情報の把握）
5．タイムライン作成に向けて

〇大町町内会における大雨時の対応を考える
（町内会役員（共助目的）によるタイムラインの作成）

〇各グループの検討結果の確認

第１回検討会の様子

◆第２回：地域住民を対象としたタイムライン検討会

〇近年の水害と大雨に向けた事前準備について
※第１回と同じ内容

〇自分が置かれた状況を確認する

1．自宅の浸水状況
2．避難先
3．家庭の状況

〇大雨時における自らの対応を考える
（地域住民（自助目的）によるタイムラインの作成）

第2回検討会の様子

期待される効果：

〇町内会役員（共助）と地域住民（自助）の行動計画を検討し、両者をまとめることで、町内会全体のタイムラインを構築することができ、地域全体での水防意識向上が期待できる。

事例のポイント：

○個人のタイムライン（マイ・タイムライン）に、町内会役員の行動計画を加えることで、地域全体でのタイムラインの構築を図った。

【北海道開発局】

マイ･タイムラインの事例

小学校の防災教育で「マイ・タイムライン」づくりにチャレンジ（北海道標茶町）

取組主体　　：標茶町

取組参加機関：釧路開発建設部、釧路地方気象台、標茶町役場、北見工業大学

対象　　：標茶町立標茶小学校　6年生

参加人数　　：42名

取組概要　　：

○「水害タイムライン試行版」の作成に携わった検討会事務局のメンバーと一緒に、標茶町立標茶小学校の6年生が、自らの防災行動を考える学習「マイ・タイムライン」づくりにチャレンジ。

○防災学習は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、広い空間を確保できる体育館を使用して休み時間には空気の入れ換えを実施、消毒の徹底等の対策を実施。

グループ毎に「マイ・タイムライン」を作成

取組内容　　：

◆１時間目

〇座学

1．近年の水害と釧路川について
2．気象情報について
3．避難情報について
4．タイムラインについて
5．マイ・タイムラインの作成について

◆２時間目

〇児童によるグループ学習

1．「台風発生から川の氾濫まで」の天候や川のようすを時系列で考え、防災行動の備えを考える。
2．グループ毎に「マイ・タイムライン」を作成する。

〇学習発表

代表２グループが、グループで作成した「マイ・タイムライン」を発表。

グループで作った「マイ・タイムライン」を発表

◆アンケート（後日回収）

児童用、保護者用

期待される効果：

〇幼少期からの水防意識向上が期待できる。

○幼少期から学ぶことで、「マイ・タイムライン」促進・普及に繋がる。

事例のポイント：

○保護者へのアンケートを行うことで、家庭での水防災意識向上も期待できる。

【東北地方整備局】

宮城県岩沼市の事例（阿武隈川水系阿武隈川）

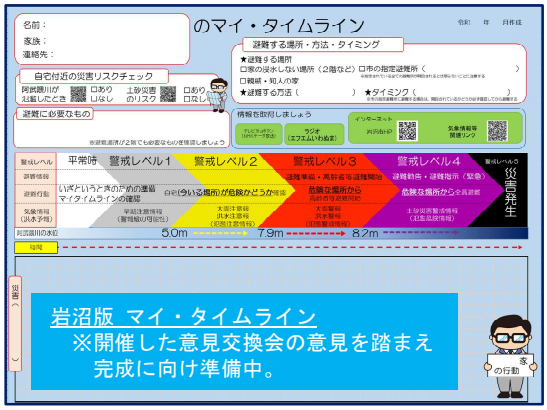
『マイ・タイムライン』の更なる地域普及を目指した地域の防災リーダー（防災士）との意見交換会

取組主体　：宮城県岩沼市
参加機関　：仙台河川国道事務所
対象　　：岩沼市内の防災士（40～70歳代）
日時　　：令和2年12月19日（土）
参加人数　：35人

【進行シナリオ】

1. 開会・あいさつ（岩沼市）	9:00～9:10
2. 治水事業説明（仙台河国）	9:10～9:30
3. コロナ禍の避難行動（岩沼市）	9:30～9:50
4. グループワーク　検討・発表	10:00～11:25
5. 質疑応答	11:25～11:55
6. 閉会	12:00

6班に分かれたグループワークで、災害時の実際の避難行動などを考え、話し合った。



取組概要

- 令和元年東日本台風来襲の際、夜間かつ大雨の中、避難所に向かう人が多く、市民の避難行動自体に危険が生じていた。
- 「避難」とは、難を避け、安全を確保すること。自宅が安全なら自宅に留まる等、市民が災害リスクを「正しく」理解し、その上で「行動」に移すことが重要である。
- 岩沼市では、『マイ・タイムラインの』普及が非常に有効であるとし、取り組みを開始。市民の誰もが着手しやすい市独自のツール作成や、その後の効果的な周知啓発などについて、地域の防災リーダー（市内在住の防災士）との意見交換会を実施した。

取り組みの様子

- まずは、阿武隈川の治水対策やコロナ禍を踏まえた避難行動などについて、参加者の理解を深めていただいた上で、『マイ・タイムライン』に関する検討を、6班のグループワークで実施した。

（参加者の感想・意見）

- コロナ禍の中でもやれることがある。今日の学びを地域の中で活かしていきたい。
- 改めて「ご近所コミュニティ」の大切さを感じた。いろいろな意見が参考になった。
- 平日と休日、それぞれのタイムラインを作成しておくこととも有効。
- 市民が親しみやすいキャラクターの活用。
- 子供の夏休みの課題にし、親子で話し合うきっかけづくりとする手もある。

期待される効果

- コロナ禍の避難行動や風水害時に市民の円滑な避難行動を促す『マイ・タイムライン』等について、地域の防災リーダーの理解を深め、さらに意見交換の内容を今後の市の防災施策へ反映させていく。

事例のポイント

- 市民目線での、市オリジナルの『マイ・タイムライン』の様式作成と普及を図る。
- 様式作成にあたり地域の防災リーダーから意見をいただき、配布後も改善を図っていく。

【東北地方整備局】

宮城県東松島市の事例

お天気キャスターとつくる、マイ・タイムライン ～自分の逃げ方を考えよう～　（宮城県東松島市）

取組主体　：東松島市

取組参加機関：北上川下流河川事務所、外部講師（気象予報士：吉田晴香氏）

対象　：東松島市内の各地区自主防災会代表の方々

参加人数　：約７０人程度（午前、午後の部の２回に分けて実施）

取組概要　：　東松島市において、自主防災組織の代表者を対象に、住民が洪水時の円滑な避難を行うことを可能とする「マイ・タイムライン」の作り方を学習していただくことを目的として、マイ・タイムライン作成講習会を開催しました。

講習会では、洪水ハザードマップや避難の考え方を確認し、お天気キャスターから最近の災害や気象の特徴についての話を聞いたあと、自分自身の家族構成や生活環境にあわせたオリジナルの「マイ・タイムライン」を作成しました。

取組の様子　：

【進行シナリオ（午前の部）　※午後の部も同内容】

9：45~10:00
受付
↓
10:00~10:05
挨拶・講師紹介
↓
10：05~10:15
洪水ハザードマップについての説明（市）
↓
10:15~11:40
マイタイムライン作成
↓
11:40~11：50
おわりに・質疑応答（アンケート記入）
↓
11：50~12：00
その他連絡事項・閉会

期待される効果：

・講習会終了後、東松島市赤井上地区では、自主的に「マイ・タイムライン勉強会」を開き、住民同士が学びあった事により、自助による地域防災力向上が期待されます。

【東北地方整備局】

山形河川国道事務所の事例

気象キャスターとつくるマイ・タイムライン講習会（山形県南陽市）

取組主体　　：南陽市

取組参加機関：山形河川国道事務所、外部講師（気象キャスター：鈴木智恵氏）

対象　　：南陽市民

参加人数　　：約140名程度

取組概要　　：

・近年の激甚化・頻発化する水害に備え、住民一人一人の生活にあった命を守るため避難計画「マイ・タイムライン」の作成を通して、自宅周辺の洪水リスク、避難場所、防災情報の入手方法等を学習し、自分自身の避難方法を考えておくことは非常に有効である。講習会では外部講師による説明をいただき「逃げキッド」を用いてマイ・タイムラインの作成を行った。

取組の様子　：

【進行シナリオ】

13:00~13:30
受付
↓
13:30~13:35
開会・挨拶（南陽市長）
↓
13:35~13:45
南陽市より説明
↓
13:45~15:15
マイ・タイムライン講座（外部講師）
↓
15:15~15:30
閉会・事務局連絡

（写真：南陽市提供）

期待される効果：

・マイ・タイムライン作成講座を市内の各地区ごとに実施することで、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知ることが期待される。

事例のポイント：

・気象キャスターによるわかりやすい気象情報の解説を交え、より住民に対して馴染みやすい講習会となった。

【東北地方整備局】

山形県酒田市の事例

市と共同で「マイ・タイムライン作成講習会」を開催（山形県 酒田市）

取組主体　：　酒田市

参加機関　：　酒田河川国道事務所（講師）

対　　象　：　酒田市港南地区自治会

参加人数　：　防災リーダー級の方々約３０名

取組概要　：　災害発生時において、自らがとるべき行動のチェックリスト、避難判断のサポートツールとしての活用が期待されている『マイ・タイムライン』を作成するための講習会に、国土交通省職員も講師として参加し、支援を行った。

取組の様子：

【進行シナリオ】13:30～15:30

講話《酒田河川国道事務所》

↓

災害を知る《酒田市》

- 地域で起こりやすい災害
- 洪水（河川の氾濫）について
- 土砂災害について
- 過去に発生した災害の事例

↓

マイ・タイムラインを学ぶ《酒田市》

- マイ・タイムラインとは（ビデオ上映5分含む）
- 台風に伴う降雨時の留意点
- 前線（線状降水帯含む）に伴う降雨時の留意点
- 避難判断のための情報確認 （ハザードマップ、気象情報、洪水予警報、自治体の避難情報など）

↓

マイ・タイムラインを作ろう《酒田市》

- ハザードマップにより自宅の危険度を確認
- 避難場所の確認（水平・垂直避難、広域避難）
- 避難方法の確認（避難ルートや移動時間を考慮）
- 避難のタイミングを考える
- 平時に準備しておくべきものを考える
- 新型コロナウイルス感染症について

↓

質疑・応答

期待される効果：

- 講習会を通じ、地域住民自らが、地区の災害リスクや逃げるための知識を得ることで、防災意識の向上、並びに人的被害の軽減が期待される。

事例のポイント：

- 自治体と連携し、地区単位で講習会を開催した。

【関東地方整備局】

小学校における防災教育での活用事例

ジュニア防災検定受検に向けた小学校でのマイ・タイムライン作成講座（茨城県稲敷市）

取組主体　　：稲敷市

取組参加機関：霞ヶ浦河川事務所、茨城県

対象　　：稲敷市新利根小学校の５年生

参加人数　　：56人（28人を2回開催）

取組概要　　：

・稲敷市新利根小学校では、防災に関する学習を通してえた知識や発見をもとに、自分なりの災害対応を考えてもらいたいことから、その目標のひとつとしてジュニア防災検定の受検を進めている。このため今回は、受検を控えた５年生を対象として、水防災の学習を目的にマイ・タイムライン作成講座を行った。なお、霞ヶ浦河川事務所はゲストティーチャーとして作成講座を支援した。

取組の様子　：

【進行シナリオ】

10:35~10:40
関係者紹介
↓
10:40~11:05
マイ・タイムライン概要
（霞ヶ浦河川事務所）
↓
11:05~12:10
マイ・タイムライン作成講座
（霞ヶ浦河川事務所）

期待される効果：

・水防災に関する知識や発見がえられるとともに、自分なりの災害対応を考える力がつき、また家に帰って家族で水防災を考えるきっかけ等の効果が期待される。

事例のポイント：小学校への普及展開、家族で考えるきっかけ等の効果

【関東地方整備局】

オンラインによる作成講座の取り組み

コロナ禍におけるマイ・タイムライン作成講座 ～YouTubeで生配信～

取組主体　　：下館河川事務所（鬼怒川・小貝川流域減災対策協議会）

取組参加機関：下館河川事務所、外部講師（防災芸人赤プルさん）

対象　　：誰でも自由参加

参加人数　　：当日視聴者数４５名程度、閲覧数１６０名程度

取組概要　　：

マイ・タイムラインの普及・啓発活動の取り組みの一環として、流域（常総市）出身でマイ・タイムラインリーダーとして活動している防災芸人「赤プル」さんによるマイ・タイムライン作成講座を開催した。（R2.9.5）

新型コロナウイルス感染症対策として、対面方式ではなくYouTube生配信で開催し、どなたでも自由に参加できる方法とした。講座で使用する教材「逃げキッド」は事前に下館河川事務所ホームページからダウンロードしてもらった。

取組の様子　：

【進行シナリオ】

11:00~
配信開始
↓
11:00~11:20
マイ・タイムライン作成講座（外部講師）
↓
11:20~11:30
水害知恵袋（外部講師・下館河川）
↓
11:30~11:40
チャットからの質問に対する回答（外部講師・下館河川）
↓
11:40
配信終了

期待される効果：

・YouTube生配信とすることで、通常の対面方式で開催する際に参加できない方の参加も期待できる。赤プルさんの防災リュックの中身を紹介するなど、身近な情報を含めることで防災意識の向上が期待される。

事例のポイント：事前受付不要、自宅から視聴可能なため、気軽に参加できる。
アーカイブ配信も行うことで後日でも視聴可能。

【関東地方整備局】

オンラインによる作成講座の取り組み

コロナ禍におけるマイ・タイムラインリーダー認定講座～オンライン開催～

取組主体　　：下館河川事務所（鬼怒川・小貝川流域減災対策協議会）

取組参加機関：下館河川事務所、常総市、外部講師（気象予報士　菊池真以さん）

対象　　：鬼怒川・小貝川流域の住民

参加人数　　：５０名程度

取組概要　　：

早期避難・逃げ遅れゼロの大切さをより多くの方々に再度知ってもらえるように、気象予報士　菊池真以さんによるマイ・タイムラインリーダー認定講座を開催した。（R2.11.28「第１部10:00～」「第２部13:00～」）

新型コロナウイルス感染症対策として、対面方式ではなくオンライン（ZOOM）で開催し、流域自治体（常総市）にもご協力いただいた。参加者、マスコミ共に事前受付として、参加者あてに当日の会議URLをメール送付して参加していただいた。

取組の様子　：

【進行シナリオ】

10:00~10:05
開会・挨拶
↓
10:05~10:10
リーダー認定制度説明（下館河川事務所）
↓
10:10~10:15
ハザードマップの説明（常総市）
↓
10:15~11:30
リーダー認定講座（外部講師）
↓
11:30～11:40
事務局連絡・閉会

期待される効果：

・オンライン開催のため、通常の対面方式で開催する際に参加できない方の参加も期待できる。

事例のポイント：オンライン開催のため、移動時間もなく自宅から気軽に参加できる。
自治体と共に実施することで地域防災力の向上につながる。

【関東地方整備局】

勤務先の防災行動も考慮した作成講座の事例

要配慮者利用施設職員を対象としたマイ・タイムライン作成講座（茨城県ひたちなか市）

取組主体　　：ひたちなか市

取組参加機関：関東地方整備局河川部、常陸河川国道事務所

対象　　：ひたちなか市内の要配慮者利用施設の避難確保計画作成対象施設の職員

参加人数　　：12人

取組概要　　：

・要配慮者利用施設の職員は、いざという時に要配慮者への支援を行いつつ、家族や自身の安全も同時に考えることが必要である。作成講座では、家族や自身の避難行動の他に、職場における避難行動として、要配慮者利用施設の避難確保計画に基づいた自身の役割や行動も含めて整理を行い、職場における避難行動も含めたマイ・タイムラインを作成した（自身の行動の具体化により、避難確保計画の見直しのきっかけにつながる）。

取組の様子　：

【進行シナリオ】

13:00~13:30
受付

↓

13:30~13:35
あいさつ
（常陸河川国道事務所）

↓

13:35~13:45
水害リスクハザードマップの説明
（ひたちなか市）

↓

13:45~15:30
マイ・タイムライン作成講座
（関東地整委託業者）

期待される効果：

・要配慮者利用施設の職員の水防災に対する知識・意識の向上、またそれにより施設自体の避難確保計画の記載事項の具体化が期待される。

事例のポイント：避難確保計画の具体化、要配慮者施設職員の水防災への意識向上

【関東地方整備局】

作成講座のサポート役育成のための取り組み

職員を対象としたマイ・タイムライン作成講座（茨城県常陸大宮市）

取組主体　　：常陸大宮市

取組参加機関：関東地方整備局河川部、常陸河川国道事務所

対象　　：常陸大宮市役所職員

参加人数　　：43人

取組概要　　：

・常陸大宮市では、今後、多くの住民を対象に複数のマイ・タイムライン作成講座の開催を予定している。作成講座に際しては、住民がマイ・タイムラインを作成する際のサポート役（グループ形式の場合に各テーブルで１名程度）が個別対応を行うことになる。今回は、将来のサポート役となる職員を対象としたマイ・タイムライン作成講座を実施した（職員自身の水防災への啓発も含まれる）。

取組の様子　：

【進行シナリオ】

13:00~13:30
受付
↓
13:30~13:35
あいさつ（常陸大宮市）
↓
13:35~13:55　（5分休憩含む）
水害リスクの説明（常陸大宮市）
↓
13:55~15:25
マイ・タイムライン作成講座（関東地整委託業者）
↓
15:25~15:30
おわりに（常陸大宮市、常陸河川国道事務所）

期待される効果：

・サポート役を担える職員数の増加により、複数のマイ・タイムライン作成講座の実施や、住民からの相談対応、市役所全体の水防災への意識向上が期待される。

事例のポイント：普及展開の加速、市役所全体の水防災への意識向上

【北陸地方整備局】

逃げ遅れゼロ大作戦～マイ・タイムラインの普及～

【講演会：令和2年10月12日】
台風第19号豪雨災害から1年～逃げ遅れゼロを目指して～

取組主体　：信濃川中流及び魚野川大規模氾濫に対する減災対策協議会
取組参加機関：信濃川河川事務所、新潟県、信濃川中流沿川市町村
対象　　：自治体防災関係者など約60名
取組概要　：

信濃川中流域では、令和元年東日本台風での被害の経験を受け、住民の命を守るには、住民一人ひとりが水害リスクを「我がこと化」し、自分の命は自分で守るための行動ができるよう支援することが重要と、流域自治体と認識を共有。

「逃げ遅れゼロ大作戦」と称し、ハザードマップやマイ・タイムラインの普及を流域自治体と協働し強力に推進してきた。

令和元年東日本台風の上陸から1年を迎えた10月12日、信濃川中流及び魚野川大規模氾濫に関する減災対策協議会主催による講演会がアオーレ長岡にて実施。

この講演会には、同協議会を構成する新潟県や長岡市など関係自治体の職員やマスコミ関係者が出席し、以下の講演により昨年の洪水で得られた知見の情報共有やマイ・タイムライン作成担当者向けの講演を実施。

1.令和元年台風19号による洪水の水理学的特性と防災意識高揚への提言　−過去の水害の記憶を辿って−
　長岡技術科学大学　細山田教授
2.令和元年東日本台風（台風19号）から1年～信濃川『令和の大改修』展開中～
　信濃川河川事務所　事務所長
3.令和元年台風第19号の教訓を活かした防災対策の推進
　長岡市　危機管理防災本部　危機管理防災担当課長
4.マイ・タイムラインの市民への普及
　燕市　総務課　防災主幹

▲講演会の様子

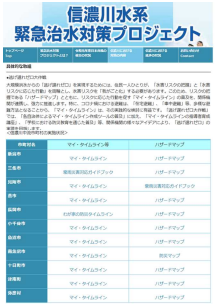
【参考】逃げ遅れゼロ大作戦

・信濃川河川事務所による技術支援や、先進自治体による事例共有等により、各自治体でマイ・タイムラインを作成
・洪水の伝播など、自治体毎の特性を踏まえた情報を追加
・各自治体でマイ・タイムラインの各戸配布や、住民向け作成講習会等の避難確保のための普及活動を実施。

『逃げ遅れゼロ　大作戦』参加自治体

新潟市	三条市	見附市
燕市	長岡市	小千谷市
魚沼市	南魚沼市	十日町市
津南町	弥彦村	

マイ・タイムラインの普及に向けた取組



▲事務所HPにおいて各自治体のマイ・タイムラインをとりまとめ公表

▲マイ・タイムライン説明状況
（令和2年7月12日開催 燕市主催 地元説明会）

期待される効果：逃げ遅れゼロ大作戦の一環で各自治体が作成したマイ・タイムラインを、自治体の実務者が住民等へ説明するための基盤を整備できた。

事例のポイント：自治体毎の地域の特徴を踏まえたマイ・タイムラインを作成したこと。自治体職員が個別でマイ・タイムライン普及に活躍できるようになるための人材育成を実施したこと

講習会の事例

自治体職員向けマイ・タイムライン講習会（長野県長野市）

取組主体　　：千曲川・犀川大規模氾濫に関する減災対策協議会

取組参加機関：千曲川河川事務所

対象　　：長野市防災部局職員のほか土木・福祉・教育・消防の各部署、各支所

参加人数　　：約50名

取組概要　　：

・避難誘導の第一線にたつ自治体職員がマイ・タイムラインを理解し、職員自らがマイ・タイムライン作りを住民に広めることにつなげる目的として、自治体職員向けマイ・タイムライン講習会を開催した。

取組の様子　：

期待される効果：

・自治体職員が自らの住む地域における洪水リスクを理解することを通じて、洪水時の住民への対応や支援についてより的確な検討ができるようになることが期待される。

事例のポイント：

・住民向けの講習会を実施する前段階として、住民に避難を促す立場である自治体がマイ・タイムラインに関する知識・理解を深める場とした。

住民向けマイ・タイムライン講習会（長野県長野市）

取組主体　　：千曲川・犀川大規模氾濫に関する減災対策協議会

取組参加機関：千曲川河川事務所、長野市

対象　　：長野市芹田地区住民自治協議会役員、同地区の住民

参加人数　　：約50名

取組概要　　：

- 住民によるマイ・タイムラインづくりの取組を広めるために、住民向けマイ・タイムライン講習会を開催した。
- 参加者は、長野市職員からのハザードマップの説明、気象キャスターの寺川奈津美講師から最近の災害、気象の特徴について講義を受けた後、寺川キャスター、長野市職員、千曲川河川事務所職員からアドバイスを受けながら、ハザードマップを見て自身の住居地の浸水リスク、避難場所などを確認し、マイ・タイムラインの作成を行った。

取組の様子　：

期待される効果：

- マイ・タイムライン作成講座を実施することで、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知り、住民自身はもちろん、地区の防災力が向上することが期待される。

事例のポイント：

- 水害リスクや避難行動のあり方などについて、住民が住む地域に合わせた詳細な説明を行った。
- 気象キャスターの寺川奈津美氏を講師として招き、気象の話題などについて参加者の関心を惹きつける内容の講演会を実施した。

防災知識向上の事例

学校における防災学習会（長野県安曇野市）

取組主体　　：長野県教育委員会

取組参加機関：千曲川河川事務所

対象　　：安曇野市立明北小学校教職員

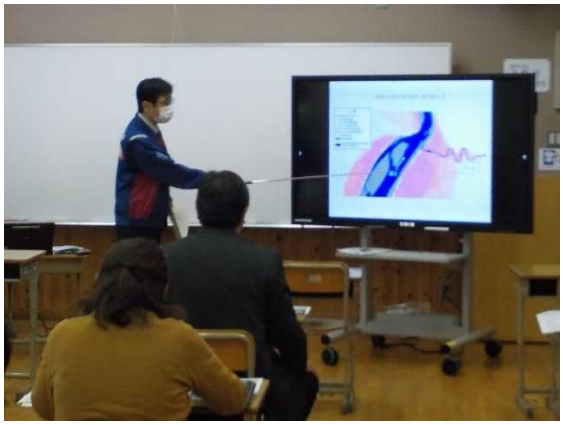
参加人数　　：約10名

取組概要　　：

・長野県教育委員会が行う学校安全総合支援事業の学校防災アドバイザーとして、防災学習会を実施した。

・マイ・タイムラインの作成手法を活用し、学校における水害時の避難行動計画をまとめた「水防タイムライン」作成に必要となる河川の防災情報について説明した。

取組の様子　：



期待される効果：

・学校の教職員が河川の防災に関する知識を習得することで、水害時における学校の安全確保が期待される。

事例のポイント：

・学校周辺の水位観測所の位置や基準水位、浸水想定区域といった避難行動の目安となる防災情報の入手方法など、当該地域に合った説明を行った。

【北陸地方整備局】

防災教育普及の事例

防災教育のパンフレット作成

取組主体　　：千曲川・犀川大規模氾濫に関する減災対策協議会

取組参加機関：千曲川河川事務所、長野県

対象　　：一般向け(主に教育機関)

取組概要　　：

・マイ・タイムライン作成を分かりやすく支援する教材である「逃げキッド」など、千曲川河川事務所が実施する防災教育の内容について紹介するパンフレットを作成した。

取組の様子　：

防災教育に関するパンフレット

期待される効果：

・パンフレットの配布により、防災に関する講座があることを周知し、防災教育を希望する学校の増加につながることが期待される。

事例のポイント：

・防災教育の重要性を伝えるとともに、希望のあった教育機関に対して行う防災講座で使用できる教材を分かりやすく紹介することにより、読み手の関心を惹起するパンフレットを作成した。

【中部地方整備局 木曽川上流河川事務所】

輪之内町立福東小学校の事例

木曽川上流河川事務所が作成した教材を使ったﾏｲ・ﾀｲﾑﾗｲﾝの授業を実施

取組主体　　：輪之内町立福東小学校

取組参加機関：輪之内町立福東小学校
対象　　：５年１組

参加人数　　：１９名

取組概要　　：
- 輪之内町立福東小学校５年１組の総合的な学習の時間において、木曽川上流河川事務所が作成した防災教育教材（学習指導・発問計画、板書計画、マイ・タイムライン紹介映像、小学校版ハザードマップ、ワークシート 等）を用いた授業が実施された。

取組の様子　：

【授業の内容（福東小学校５年１組）】

①導　　入：マイ・タイムライン紹介映像を視聴し、水害に対して備えることが大切だと意識する。

②展開前段：小学校版ハザードマップを使って、学校や家の周りの危険な箇所について調べる。

③展開後段：マイ・タイムラインシートに、各自、水害時にとるべき行動について、「いつ」行うべきかを記入し、意見を出し合う。

④終　　末：とるべき行動、やってはいけない行動を共有し、「水害には予兆があり、準備をすることで命を守ることができる」ことを伝える。

期待される効果：
・マイ・タイムラインについての授業を実施いただくことで、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知ることが期待される。

事例のポイント：小学校区版のハザードマップを参照し、避難方法の検討を行った。

【中部地方整備局 木曽川上流河川事務所】

輪之内町立大藪小学校の事例

木曽川上流河川事務所が作成した教材を使ったﾏｲ・ﾀｲﾑﾗｲﾝの授業を実施

取組主体　　：輪之内町立大藪小学校

取組参加機関：輪之内町立大藪小学校
対象　　：５年１組

参加人数　　：２３名

取組概要　　：
- 輪之内町立大藪小学校５年１組の総合的な学習の時間において、木曽川上流河川事務所が作成した防災教育教材（学習指導・発問計画、板書計画、マイ・タイムライン紹介映像、小学校版ハザードマップ、ワークシート 等）を用いた授業が実施された。

取組の様子　：

【授業の内容（大藪小学校５年１組）】

①導　　入：マイ・タイムライン紹介映像を視聴し、水害に対して備えることが大切だと意識する。

②展開前段：小学校版ハザードマップを使って、学校や家の周りの危険な箇所について調べる。

③展開後段：マイ・タイムラインシートに、各自、水害時にとるべき行動について、「いつ」行うべきかを記入し、意見を出し合う。

④終　　末：とるべき行動、やってはいけない行動を共有し、「水害には予兆があり、準備をすることで命を守ることができる」ことを伝える。

期待される効果：
・マイ・タイムラインについての授業を実施いただくことで、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知ることが期待される。

事例のポイント：小学校区版のハザードマップを参照し、避難方法の検討を行った。

【中部地方整備局 木曽川上流河川事務所】

安八町立結小学校の事例

安八町立結小学校６年生を対象に、ﾏｲ・ﾀｲﾑﾗｲﾝ作成の出前講座を実施

取組主体　　：安八町立結小学校

取組参加機関：安八町立結小学校
対象　　：６年１組、６年２組

参加人数　　：６５名

取組概要　　：
- 安八町立結小学校において６年生を対象に、総合的な学習の時間として、水害が起こるまでの避難行動やタイミングのイメージを持つため、マイタイムライン作成の出前講座を実施

取組の様子　：

①洪水ハザードマップより水害時の危険について話し合う

浸水深等身大パネルを用いて水害時の浸水深を体感し、洪水ハザードマップにて、水害時の児童の自宅周辺の危険箇所を確認し、安全な避難ルートや避難先を考えるグループワーク

②マイタイムラインの作成

水害が起こるまでの時系列的な状況変化に応じて、避難行動を考えてマイタイムラインを作るグループワーク

③授業のまとめ、感想の発表

〇まとめ
それぞれの家庭に合ったマイタイムラインを家族と考えながら話し合ってみてください。

〇児童の感想
- 家でできることはやっておいて、水害時に、自分たちで動けるようにしておこうと思いました。
- マイタイムラインで災害時にどんな行動を取るべきか確認できたので、家でもやってみたいと思いました。

期待される効果：
- マイ・タイムラインについての出前講座を実施することで、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知ることが期待される。

事例のポイント：小学校区版のハザードマップを参照し、避難方法の検討を行った。

【中部地方整備局 木曽川上流河川事務所】

岐阜市立則武小学校の事例

木曽川上流河川事務所が作成した教材を使ったﾏｲ・ﾀｲﾑﾗｲﾝの授業を実施

取組主体　　：岐阜市立則武小学校

取組参加機関：岐阜市立則武小学校
対象　　：５年１組

参加人数　　：３６名

取組概要　　：

- 岐阜市立則武小学校5年1組の総合的な学習の時間において、木曽川上流河川事務所が作成した防災教育教材（学習指導・発問計画、板書計画、マイ・タイムライン紹介映像、小学校版ハザードマップ、ワークシート 等）を用いた授業が実施された。

取組の様子　：

【授業の内容（則武小学校５年１組）】

①導　　入：水害と地震の特徴を考え、水害は地震にくらべて事前に備えることができる災害であると理解する。

②展開前段：マイ・タイムライン紹介映像を視聴し、水害に対して備えることの大切さを意識する。
また家庭によってマイ・タイムラインは異なることを理解する。

③展開後段：マイ・タイムライン作成シートに、各自水害時にとるべき行動について「いつ」「何をするか」を記入し、「なぜ」そのような行動計画にしたのか話し合う。

④終　　末：避難し始めるタイミングについて意見を出しあった後、マイ・タイムライン作成について、感じたことを発表。

期待される効果：
・マイ・タイムラインについての授業を実施いただくことで、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知ることが期待される。

事例のポイント：小学校区版のハザードマップを参照し、避難方法の検討を行った。

【中部地方整備局 木曽川上流河川事務所】

大垣市立青墓小学校の事例

木曽川上流河川事務所が作成した教材を使ったﾏｲ・ﾀｲﾑﾗｲﾝの授業を実施

取組主体　　：大垣市立青墓小学校

取組参加機関：大垣市立青墓小学校
対象　　：４年１組

参加人数　　：３０名

取組概要　　：

・大垣市立青墓小学校４年１組の総合的な学習の時間において、木曽川上流河川事務所が作成した防災教育教材（学習指導・発問計画、板書計画、マイ・タイムライン紹介映像、小学校版ハザードマップ、ワークシート 等）を用いた授業が実施された。

取組の様子　：

【授業の内容（青墓小学校４年１組）】

①導　　入：マイ・タイムライン紹介映像を視聴して、水害に対して備えているかで、水害時のスムーズな避難を左右することを意識

②展開前段：タイミングカードを提示し、カードの示す警戒レベルについて整理。続いてキーワードカードを提示し、どのタイミングでどの行動を取るべきかを考える

③展開後段：自分たちが避難するときは、何が必要か考えながら自分なりのマイ・タイムラインを作成する

④終　　末：自分で自分を災害から守る取り組みを意味する「自助」という言葉を学び、授業全体を通しての感想を発表

期待される効果：

・マイ・タイムラインについての授業を実施いただくことで、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知ることが期待される。

事例のポイント：小学校区版のハザードマップを参照し、避難方法の検討を行った。

【近畿地方整備局】

福井河川国道事務所の事例

マイ防災マップ作成、まち歩き体験を組合わせたマイ・タイムライン作成講座（福井県福井市）

取組主体　：福井市森田公民館

取組参加機関：福井河川国道事務所、福井市森田公民館、森田地区自主防災会、NPO法人ドラゴンリバー交流会

対象　：福井県福井市森田地区

参加人数　：延べ188名

取組概要　：マイ・タイムラインの作成を推進するため、マイ防災マップ作成から始め、①．自分たちの住んでる地域の特性やまち歩きルートによる避難ルートや注意箇所の確認を行うための事前説明、②．マイ防災マップの作成手順、まち歩きによる避難ルートや注意箇所の確認の体験を実施、③．マイ防災マップ作成のワークショップまでを３回に分けて実施。次に、④．逃げキッドを用いたワークショップ形式によるマイ・タイムラインの作成と作成後の発表・意見交換会、減災対策の取組紹介、避難に必要な情報の取得に関する説明を行った。

取組の様子　：

【事前説明会】

【まち歩き体験】

【マイ防災マップワークショップ】

【マイ・タイムラインワークショップ】

期待される効果：

最悪の場合に自ら命を守るため、住民一人ひとりの自分自身に合った避難に必要な情報・判断・行動を把握し、マイ防災マップ及びマイ・タイムラインの作成による危機意識の高揚により、「逃げ遅れゼロ」に向け、地域防災力の向上を図る効果が期待される。

事例のポイント：マイ防災マップ作成、まち歩き体験などの取組みとの組み合わせ

【近畿地方整備局】

姫路河川国道事務所の事例

お天気キャスターと一緒に考えるマイ・タイムライン作成講座（兵庫県加古川市）

取組主体　　：姫路河川国道事務所

取組参加機関：加古川市

対象　　：主に加古川沿川住民

日時　　：9月26日（土）　10:00～12:00

参加人数　　：38名(9/26)

取組概要　　：

住民自ら洪水時の円滑な避難を行うことを可能とする「マイ・タイムライン」を作成する講習会を実施した。講師には気象予報士・岩谷　忠幸氏をお招きし、「逃げキッド」を用いてマイ・タイムラインの作成を行った。

取組の様子　：

【進行シナリオ】

9:30~10:00
受付
↓
10:00~10:10
開会・挨拶
↓
10:10~10:20
加古川市よりハザードマップの説明
↓
10:20~11:50
防災講演・マイタイムライン作成講座（気象予報士・岩谷　忠幸氏）
↓
11:50~12:00
閉会

期待される効果：

マイ・タイムラインを作成することによる水防災の危機管理意識の醸成や、避難判断の一助として、マイタイムラインの活用が期待される。

事例のポイント：出来たばかり(R2.9発行）の、加古川市防災マップ（想定最大規模浸水対応）を使用した

※前日（9/25）には、流域各市町の担当者及びメディア向けに同様の講座を実施しました。

京都府の事例

地域で自主的に声を掛け合って避難する共助体制の構築を目的とした水害等避難行動タイムライン作成ワークショップ（京都府内の８市1町(福知山市、宇治市、京丹後市他)）

取組主体　　：京都府

取組参加機関：福知山市、宇治市、京丹後市などの府内８市1町の基礎自治体

対象　　：各基礎自治体の自主防災組織

参加人数　　：各回15～30人程度

取組概要　　：

学識経験者の解説をいただきながら、3回構成（又は２回）の住民参加によるワークショップを府内８市1町の９自治会に対し行った。（令和３年２月現在）

具体的には、タイムライン作成の必要性やポイントを説明し、地域の現状、避難場所と避難のタイミング、役割分担や課題について話し合い、タイムラインと災害・避難カードを作成した。実践により得られた経験を資料、動画にまとめ、HPにて公開した。

【タイムライン作成の流れ】

第１回ワークショップ

（講義）
- タイムラインの概要
- 作成のポイント（「いつ」「どこへ」「どのように」）
- 避難行動のあり方に関する解説

（ワークショップ）
- 近年の災害の振り返り・危険箇所の把握

第２回ワークショップ

（講義）
- 事前避難と緊急避難の説明
- スイッチ（避難の目安）・次善の避難場所（セカンドベスト）の説明

（ワークショップ）
- スイッチの検討
- 避難先の検討

第３回ワークショップ

（ワークショップ）
- スイッチ・避難先の選定
- 役割分担の検討
- タイムライン、災害避難カードの作成

取組の様子　：

期待される効果：

タイムライン作成のワークショップにおける意見交換や作業、発表により、災害の特性や、避難に関する知識、実際にとるべき行動への理解が深まり、地域住民の防災意識向上が期待できる。

事例のポイント：

自主的な避難行動を行うための目安（きっかけ）である「避難のスイッチ」と次善（セカンドベスト）の避難場所を設定し、共有した。

【近畿地方整備局】

木津川上流河川事務所の事例

みんなで逃げよう！Mimiワークショップ（三重県名張市）

取組主体　　：名張市

取組参加機関：木津川上流河川事務所、外部講師（CeMI）

対象　　：三重県名張市南町・朝日町地区他

参加人数　　：36名

取組概要　　：

・名張市では、想定しうる最大規模の降雨による名張川や宇陀川等の河川の氾濫が発生した場合、市街地の大半が浸水し、大きな被害が想定されている。また、土砂災害警戒区域もあることから土砂災害も想定されている。市民自身が命を守るために「自分の逃げ方」として、「マイ・タイムライン」を作成しておくことは非常に有効であるので、講習会を２回開催することとした。１回目の講習会は大阪・名張・東京をリモートで結び、外部講師の説明を受けてマイ・タイムラインの作成を行った。

取組の様子　：【進行シナリオ】

13:00~13:30
受付
↓
13:30~13:45
開会挨拶・ワークショップの進め方
↓
13:45~14:15
情報提供「災害ﾘｽｸを知る」
↓
14:15~14:35
「地域の災害ﾘｽｸを確認する」
マイ防災マップの作成
↓
14:35~15:15
「個人の避難行動を考える」
マイ・タイムラインの作成
↓
15:15~15:25
まとめ
↓
15:25~15:30
閉会・次回予告・ｱﾝｹｰﾄのお願い

期待される効果：

マイ・タイムライン作成講座を各自治会ごとに実施することで、自分たちが住んでいる地区の洪水及び土砂災害リスクを知ることが期待される。

事例のポイント：オンライン講習とし、東京から特に、タイムラインに詳しい専門家から、講義を行って頂いた。

【中国地方整備局】

地域連携型要配慮者マイ･タイムライン

地域を巻き込んで、要配慮者が避難できる仕組みを（岡山県倉敷市）

取組主体　　：高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所（事務局）

取組参加機関：真備地区関係機関・事業所等連絡会、真備高齢者支援センター（地域包括支援センター）、まちづくり推進連絡協議会、民生委員、社会福祉協議会、倉敷市　ほか

対象　　：倉敷市

参加人数　　：真備町の要配慮者を中心に取り組みを拡大

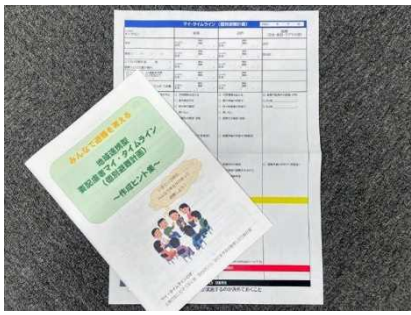
取組概要　　：西日本豪雨で、倉敷市真備町は51名もの方が亡くなられた（災害関連死除く）が、そのうち約８割が70歳以上の高齢者でした。そのため、洪水で死者を出さないためには、高齢者や障がい者など1人で自発的に避難することが難しい方々に避難してもらうことが重要です。

　倉敷市真備町地区では、要配慮者が、「いつ」「どこに」「誰と」「どうやって」避難するか、隣近所をはじめとした地域の方々や、福祉事業所職員等一緒に考える、「地域連携型のマイ・タイムライン」の作成を進めています。さらには、蓄積されたノウハウを作成ヒント集としてまとめるとともに、劇団「老いと演劇 OiBokkeShi」（主演俳優は94歳）による作成支援動画を作成し、取り組みを加速化しています。

取組の様子　：

要配慮者マイ･タイムライン
作成中の様子

要配慮者マイ･タイムラインにもとづき
避難訓練を実施



要配慮者マイ･タイムライン
作成ヒント集

作成者の声

劇団OiBokkeShiによる
要配慮者マイ･タイムライン作成動画

期待される効果：

- 日頃から地域全体のコミュニケーションが活性化される
- 要配慮者が計画的に避難できる
- 避難支援が支援する側の避難スイッチにつながり、地区全体の早期の避難促進につながる

事例のポイント：要配慮者（または家族）、隣近所の地域住民、福祉事業所が対面で話をすること

【四国地方整備局】

小学生を対象とした防災学習の事例

家族でつくるマイタイムライン学習会（香川県まんのう町）

取組主体　　：まんのう町立長炭小学校ＰＴＡ

取組参加機関：香川河川国道事務所、（一財）河川情報センター外部講師（近藤秀樹）

対象　　：まんのう町立長炭小学校

参加人数　　：17人

取組概要　　：

・まんのう町立長炭小学校の生徒及び保護者が参加され、近年の異常な豪雨や河川の急激な水位上昇に対する安全な行動を学んだ。
・講師から「自分と家族の命を守るため」に、土器川の特徴や、台風の位置を知る方法、スマートフォンで確認できる気象・水象やＣＣＴＶ画像、風の強さ、雨量の観測について説明があり、家族でつくるマイタイムラインについても参加者は楽しく学んだ。

取組の様子　：

講師から「自分と家族の命を守るため」の説明

団扇でどれくらい強い風が起こせるかの実験

ペットボトルを使用した雨量計の作成

参加者全員での記念撮影

期待される効果：

・子供から大人まで幅広い世代にマイ・タイムラインを作成させることの重要性及び、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知ることが期待される。

事例のポイント：子供たちを通じ、家族全員で水害における知識を共有できる。

全世代に広がるマイ･タイムラインづくりの事例

全世代に広がるマイ・タイムラインづくり（愛媛県松山市）

取組主体　　：松山市

取組参加機関：河川情報センター、愛媛大学防災情報研究センター、
松山市自主防災組織ネットワーク会議、市内学校ほか

対象　　：自主防災組織、市内学校の児童・生徒ほか

参加人数　　：参加者多数

取組概要　　：

- 松山市では平成30年7月豪雨を受け、令和元年度にマイ・タイムライン作成のファシリテーターを養成する研修を市職員、市消防吏員、愛媛大学防災情報研究センターの皆さんに参加いただき開催。研修後、松山市オリジナルのマイ・タイムラインシートを作成。
- その後、松山市の全自主防災組織が参画する松山市自主防災組織ネットワーク会議にて、マイ・タイムライン作りの研修会を開催。地区の代表者らが作成方法を学び、後日自分の地区で住民を集めてマイ・タイムラインづくりを行った事例もある。さらに、災害時の地域の行動をまとめたタイムラインづくりに取り組んでいるところもある。
- また、市内の学校にも出向きマイ・タイムラインの出前授業を実施したり、先生がマイ・タイムラインづくりを授業で取り入れられるようにサポート動画を作成し、市内すべての小中学校に配布。
- 以上の取組みにより、松山市では全世代へマイ・タイムラインづくりの輪を広げている。

取組の様子　：

ファシリテーター研修の様子

松山市自主防災組織ネットワーク会議での研修の様子

内宮中学校でのマイ・タイムラインづくりの授業の様子

松山東高等学校でのマイ・タイムラインづくりの授業の様子

期待される効果：
様々な世代にマイ・タイムラインづくりが広がることで、自助・共助の輪が広がり、地域防災力の向上につながっている。

事例のポイント：
ファシリテーターの育成と、様式や作成の手引きを市HPで公開して取り組みやすい環境を整えていることが、マイ・タイムライン作りが広がるきっかけとなっている。

自主防災会主催のマイ･タイムライン講座の事例

地域特性を考えたマイ・タイムライン作成講座（愛媛県伊予市）

取組主体　　：広報区灘町Ｂ自主防災会

取組参加機関：広報区灘町Ｂ自主防災会、伊予市総務部危機管理課

対象　　：伊予市灘町Ｂ広報区住民

参加人数　　：約80人程度

取組概要　　：

・伊予市の灘町Ｂ地区は沿岸地域であり、想定しうる最大規模の降雨による重信川等の河川の氾濫や、超大型台風の接近に伴う高潮、南海トラフ地震による津波が発生した場合、地区内の大部分が浸水し、大きな被害が想定されている。市民自身が命を守るために「自分の逃げ方」として、「マイ・タイムライン」を作成しておくことは非常に有効である。今回は防災士の講習会で「マイ・タイムライン」を学んだ自主防災会長の発案で、講習会を開催。伊予市危機管理課はアドバイザーとして参加した。

【進行シナリオ】

8:30~9:00
受付

9:00~10:00
開会、会長挨拶
南海地震ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ映像の上映
質疑応答（市）
進行説明（会長）

10:00~10:30
４班に分かれて想定される災害、地域の特異性を古地図、ﾊｻﾞｰﾄﾞﾏｯﾌﾟ等を見ながら検討

10:30~11:45
マイ･タイムライン」作成

11:45~12:00
各グループの発表、閉会

期待される効果：

マイ・タイムライン作成講座を市内の各地区ごとに実施することで、自分たちの住んでいる地区の災害リスクを知ることが期待される。

事例のポイント：

古地図、ハザードマップを参照し、地域特性を考えながら避難方法の検討を行った。

【四国地方整備局】

小学生を対象としたマイ･タイムライン作成の事例

マイ・タイムライン作成を通じた防災教育支援例（愛媛県大洲市）

取組主体　　：国土交通省
取組参加機関：大洲市教育委員会、愛媛県
対象　　：大洲市内小学校４年生（菅田小学校、粟津小学校、久米小学校、喜多小学校）
参加人数　　：約１８０人程度
取組概要　　：

・大洲市教育委員会を通じ、愛媛県と合同で市内の小学校に出向き、防災教育を実施。
・若手職員が講師となり、座学・実習・発表の一連を通じて、「マイ・タイムライン」づくりを経験。
・「逃げキッド」を用いてマイ・タイムラインの作成
・各家庭に持ち帰って家族で作成したマイ・タイムラインを後日発表。

【進行シナリオ】

１．開会あいさつ（３分）
２．肱川の特徴について（１０分）
３．マイタイムラインづくり（２５分）
４．質疑（５分）

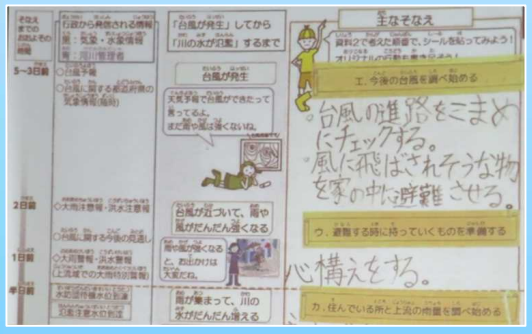
取組の様子　：

【実習】

児童と職員で、マイ･タイムライン（案）を作成
家に持ち帰り、家族で完成させる

【発表】

家族で作成した
マイ･タイムラインについて発表



期待される効果及び事例のポイント：

・マイ・タイムラインを家庭に持ち帰り、家族で完成させることで、各家庭の防災意識向上および災害時の円滑な避難に期待。

飯塚市におけるマイ･タイムラインの事例

マイ・タイムライン作成講座（福岡県飯塚市）

取組主体　　：飯塚市

取組参加機関：遠賀川河川事務所

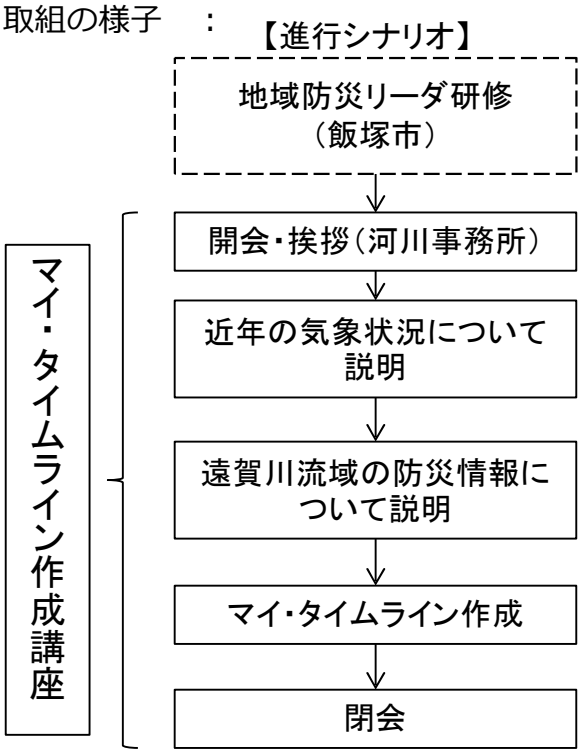
対象　　：飯塚市に在住の方

参加人数　　：コロナ感染対策を重視し、二日に分けて開催（合計28名）

取組概要　　：

・遠賀川流域内の人口密度は、九州の一級水系の中で最も高い約600人／㎢となっており、家屋の2階床高に相当する浸水深3m以上の区域には、飯塚市や直方市等の中心部を含む、7市13町１村の約６２万人が居住するなど、洪水氾濫が発生した場合の人的被害及び社会経済的被害は甚大なものとなる。このような地域特性も踏まえ、「マイ・タイムライン」の有効性を理解してもらうため、講習会を開催した。本講習会では各参加者の自宅やよく行く場所の水害リスクを調べてもらい、マイ・タイムラインの作成を行った。

取組の様子　：



期待される効果：

・マイ・タイムラインを作成することで、自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを理解し、事前避難に繋がることが期待される。

事例のポイント：新型コロナにより参加人数に限りがあるなか、将来の地域防災を担う人に説明・紹介し、効果的な防災意識の向上を図った。